

「建築空間の質的向上に通ずる能楽研究の建築学的アプローチ」

代表 内藤 廣 （東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 教授）
委員 津村 禮次郎（観世流能楽師シテ方）
田野倉 徹也（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 修士課程）

〔研究報告要旨〕

公演名 : 淡路能楽公演「能楽×建築 ～生み出される3つの能舞台」
場所 : 兵庫県津名郡東浦町浜 1-50（三洋電機広場）
演目 : 能 「淡路」 16:30～17:40（舞台Ⅰ）
狂言「盆山」 18:00～18:25、能舞「松風」 18:25～18:45（舞台Ⅱ）
能 「猩々」 19:10～19:50（舞台Ⅲ）

①設計期間（6月20日～28日）

公演に先立って、東京代々木のオリンピックセンターで、3グループに別れた設計作業を行った。その間、観世流能楽師津村禮次郎氏によるワークショップ（演目解説・能面体験・装束体験・地謡体験など）や、建築家内藤廣氏によるデザインチェック、構造家金田充弘氏による構造チェックも行われた。

②施工期間（7月1日～18日）

場所を淡路島東浦町に移し、一軒家を借りての合宿。会場（通路・休憩所・受付）、舞台の施工を行う。その際、公募により集まった学生（神戸芸術工科大学、大阪市立大学など）も交えて作業は行われた。

10日には、東浦町公民館サンシャインホールにおいて、公式な記者発表（朝日新聞・産経新聞・淡路島TV・時事通信・日経アーキテクチャーの記者が参加）と、町の人に向けた能楽普及ワークショップを開催。

③能楽公演（7月18日）

施工期間と並行して、公演運営の打合せは幾度となく行われ、町の人、設備会社や食品販売業者の協力を得て、当日のスタッフは100名を越した。

当日の午前中は雨がパラついたものの、午後からは降水確率20%が的中し、観客は涼しい風と流れる雲を楽しんだ。メインイベントでは鮮やかな夕焼けが、「猩々」の赤い髪と重なって、観客からは「神の舞」との声も聞こえた。帰り道の誘導灯には、淡路景観園芸学校の生徒作の、淡路瓦による蠟燭の誘導灯が観客の目を楽しませた。入場者数は550人（700を超える応募があった）。